

第3章

前提条件の整理

第3章 前提条件の整理

1. 上位関連計画

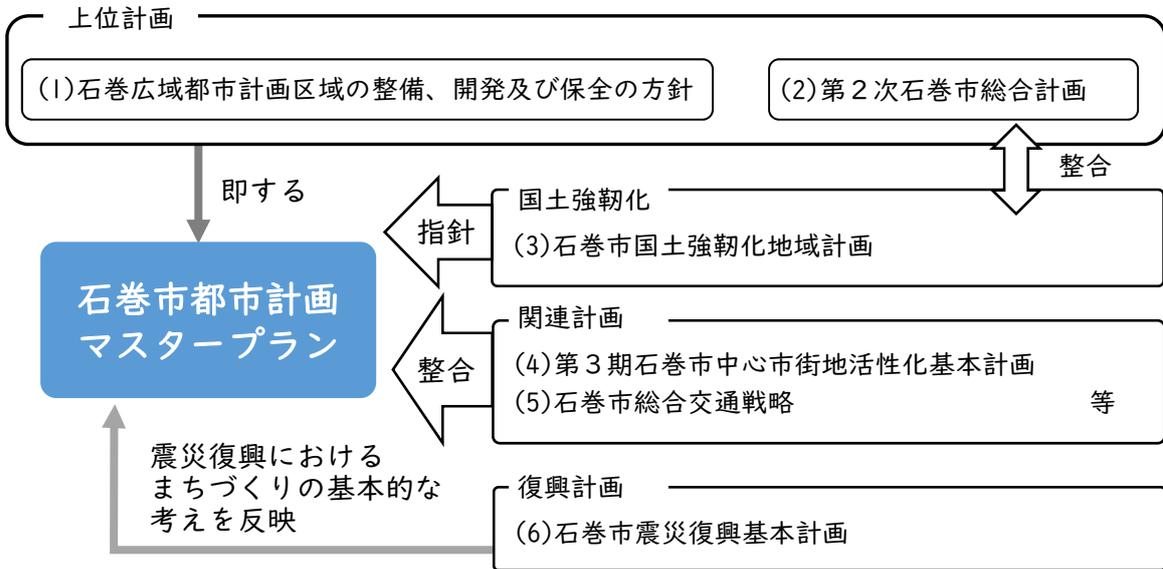


図3-1 石巻市都市計画マスタープランと上位・関連計画との関係

(1) 石巻広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和元年5月策定）

県東部地区（石巻市、東松島市、女川町）の都市づくりについて、区域の将来像「災害に強く、活力・交流が生まれる拠点ネットワーク型集約都市構造の形成」に向けた主たる市街地の方針に、「震災からの復興と災害に強い市街地形成の推進」「水産業等の復興と本区域の発展を牽引する産業拠点の形成」「魅力ある中心拠点等の形成とそれと連携する公共交通ネットワークの維持・充実」「国際観光機能等の強化」を掲げています。

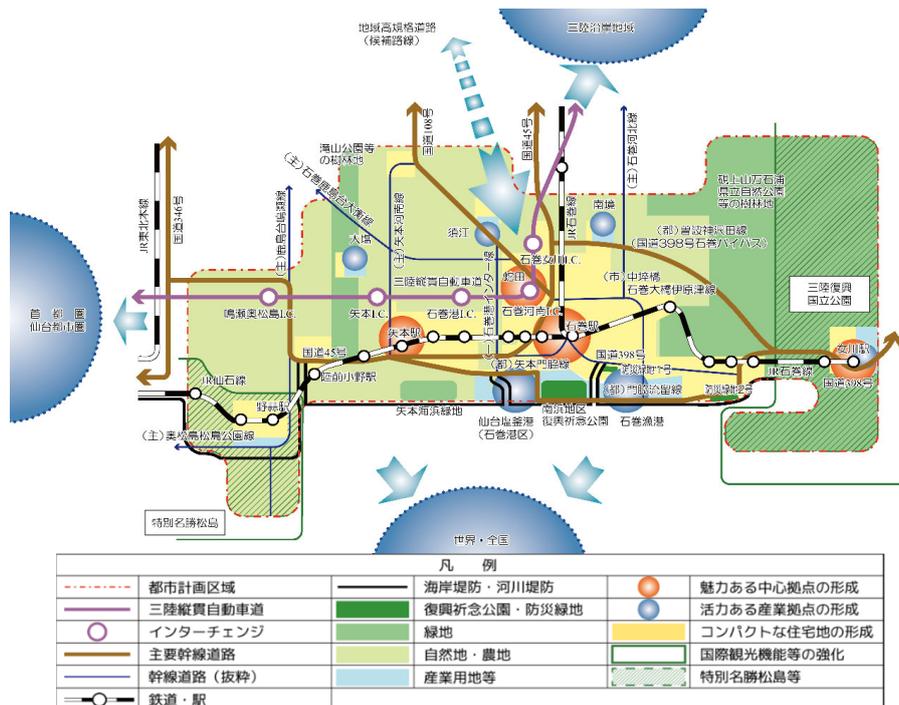


図3-2 都市づくりの基本方針

(2) 第2次石巻市総合計画

総合計画は、本市の全ての計画の基本となり、計画的・効率的な行政運営の観点を含んだ長期的視点から市全体の方向性を示す最上位計画で、「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」から構成されており、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、基本計画と一体的に策定するほか、SDGs（持続的な開発目標）の観点を取り入れた、令和3年度から10年間の市政運営の指針です。

【将来像と基本目標】

■将来像：ひとりひとりが 多彩に煌（きら）めき 共に歩むまち

- 基本目標1 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち
- 基本目標2 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち
- 基本目標3 共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち
- 基本目標4 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち
- 基本目標5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち
- 基本目標6 市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち

■目標人口（令和12年）：125,400人

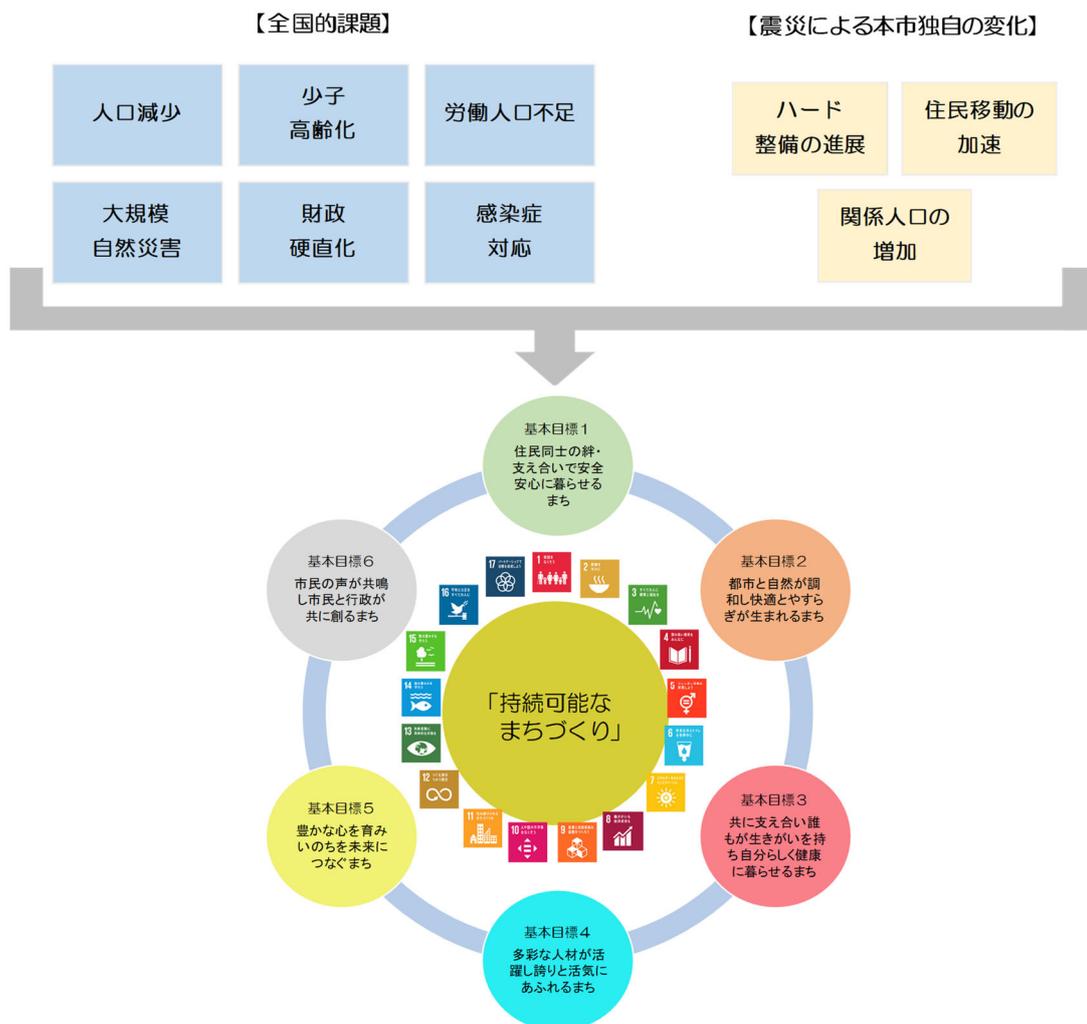


図3-3 基本目標

(3) 石巻市国土強靱化地域計画

国土強靱化地域計画は、どのような大規模自然災害等が起こっても機能不全に陥らず、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」をつくりあげるためのプランであり、強靱化に関する事項については、地域防災計画をはじめ、行政全般に関わる既存の総合的な計画に対しても基本的な指針となるものです。

当該計画は、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とし、国土強靱化の理念に鑑み、国土強靱化基本計画及び宮城県国土強靱化地域計画と同様の4つの「基本目標」及び8つの「事前に備えるべき目標」を掲げています。また、事前に備えるべき目標の妨げとなる事態として、基本計画等における「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」を基本として、過去の大規模自然災害や地域特性を踏まえ、30の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」を設定しています。

【基本目標】

- 1 人命の保護が最大限図られる
- 2 市及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される
- 3 市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- 4 迅速な復旧復興

事前に備えるべき目標		起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）		事前に備えるべき目標		起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）					
1	直接死を最大限防ぐ	1	1-1	6	生活・経済活動に必要な最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワークを確保するとともに、これらの早期復旧を図る	18	6-1				
		2	1-2			19	6-2				
		3	1-3			20	6-3				
		4	1-4				地域交通ネットワークが分断する事態				
2	救助・救急、医療活動等が迅速に行われる（それがなされない場合の必要対応を含む）	5	2-1	7	制御不能な二次災害を発生させない	21	7-1				
		6	2-2			22	7-2				
		7	2-3			23	7-3				
		8	2-4			24	8-1				
		9	2-5				8-2				
		10	2-6				8-3				
11	3-1	8-4									
3	必要不可欠な行政機能を確保する	12	4-1	8	地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する	25	8-2				
						26	8-3				
4	必要不可欠な情報通信機能を確保する	13	5-1	8	地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する	27	8-4				
						5	経済活動を機能不全に陥らせない	28	8-5		
								14	5-2	29	8-6
								15	5-3	30	8-7
								16	5-4		風評被害や信用不安、生産力の回復遅れ、大量の失業・倒産等による地域経済等への甚大な影響
17	5-5										

図3-4 事前に備えるべき目標・起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）

(4) 第3期石巻市中心市街地活性化基本計画（令和2年3月30日内閣総理大臣認定）

当該計画は、令和2年4月から令和7年3月までの5年間を計画期間とし、「石巻らしさを生かし、市民の誇りと石巻に暮らすことの豊かさを醸成できるまち」を目指し、「多様な都市機能を集積し、少子高齢化社会に対応した、歩いて暮らせるコンパクトで安全・安心なまちづくり」をコンセプトに掲げ、下図のとおり、基本方針、目標指標に係る主たる事業、目標を掲げています。



図3-5 第3期石巻市中心市街地活性化基本計画の概要・抜粋

(5) 石巻市総合交通戦略（平成28年3月策定）

当該計画は、平成28年度から令和7年度までの10年間を計画期間に、石巻市総合計画や石巻市震災復興基本計画、石巻市都市計画マスタープラン（いずれも交通戦略策定時点）との整合を図り、それら計画で定める将来都市像実現に向けた地域公共交通のマスタープランです。

【計画の基本理念と基本方針】

- 基本理念：元気な「まち」・「ひと」を支える地域公共交通
～交通の視点から復興を支援し、コンパクト+ネットワークを実現～
- 基本方針
 - 1 各地域に安心して住み続けられるために、日常生活等を支える「使える」交通手段の確保
 - 2 復興まちづくりと連動した「多極ネットワーク型コンパクトシティ」形成に貢献する
 - 3 地域内外の交流・観光利用を促進し、地域と住民を元気にする
 - 4 多様な主体の連携と協働により、将来に渡り継続できる地域公共交通を構築する

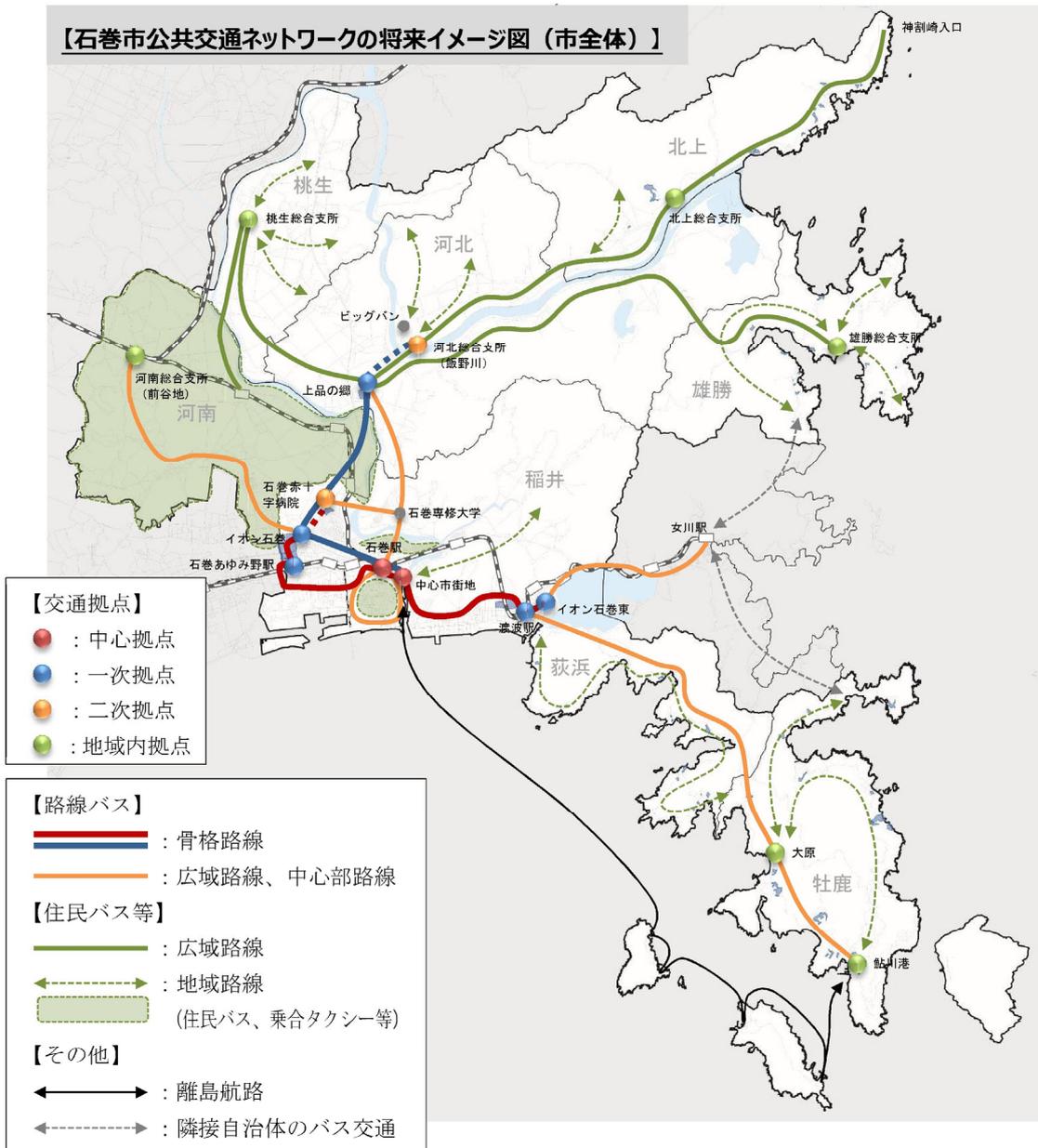


図3-6 石巻市公共交通ネットワークの将来イメージ

(6) 石巻市震災復興基本計画

平成23年12月に復興の基本的な考え方や今後の復興に関する施策の展開、地区別の整備方針など、復興に向けた道しるべとして策定しました。

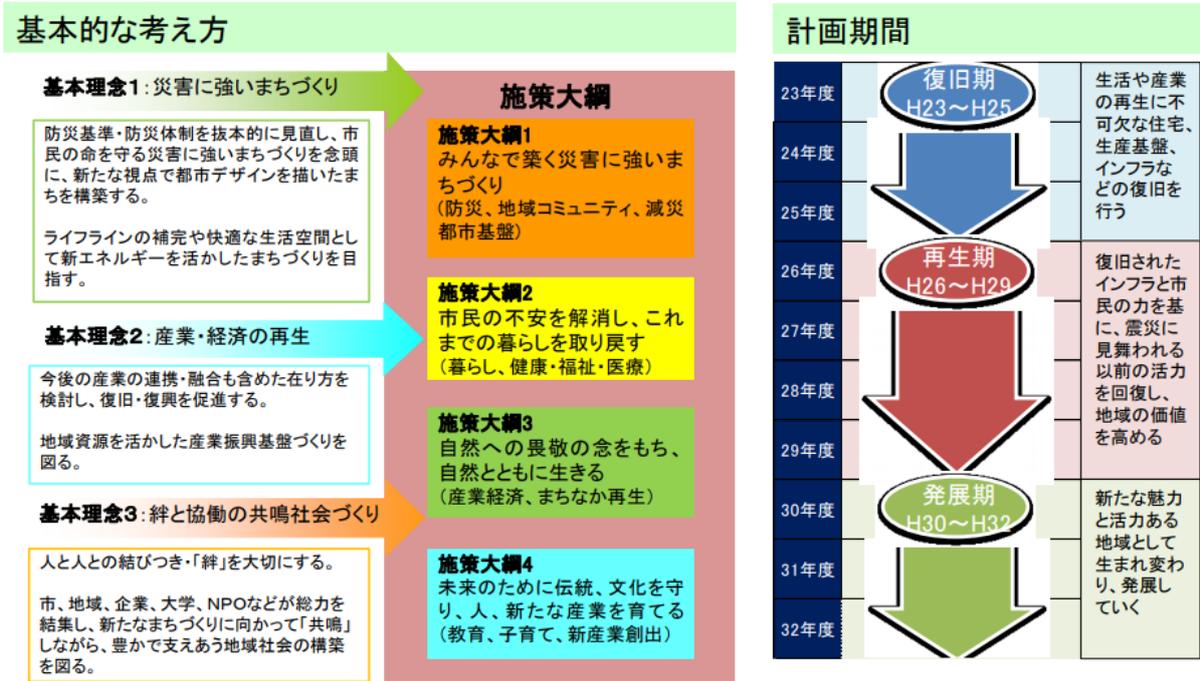


図 3-7 石巻市震災復興基本計画の体系と計画期間

2. 市民意向（アンケート調査結果）

(1) 石巻市都市計画マスタープラン改定に伴う市民アンケート調査

1) 調査概要

本計画の改定にあたり、市民の意向を把握するため、石巻市在住の18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し、郵送による配布・回収で、アンケート調査を実施しました。

表3-1 調査概要

項目	内容	備考
調査期間	令和2年1月17日(金)～1月31日(金)	回収数は、2月25日時点
配布数	2,995票(3,000票を抽出)	3,000票のうち、5票は調査時点で死亡又は転出を確認
回収数 (回収率)	1,222票(40.8%)	—

2) 調査結果

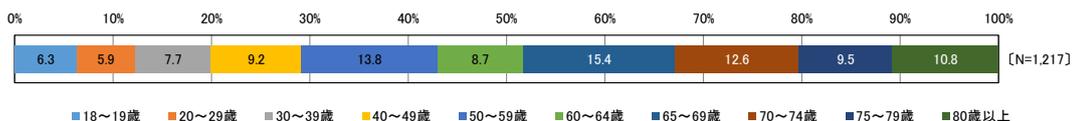
①回答者属性

[性別（設問1）]

性別は、男性40.5%、女性59.5%で概ね、2：3の比率になります。

[年齢（設問2）]

年齢は、30歳未満、30歳代から50歳代までは10%前後あり、65歳以上が約50%を占めます。



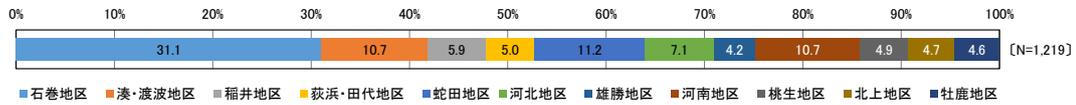
[職業（設問3）]

職業は、無職が約30%を占め最も多く、次いで多い会社員の約20%のほかは、専業主婦（主夫）、自営業、パート・アルバイトとも10～15%を占めます。高校生や大学生以上の学生は合わせて5%程度にとどまります。



〔居住地域（設問4）〕

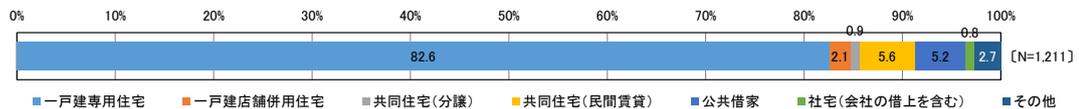
居住地域は、石巻地区が全体の約30%を占め、次いで多い、湊・渡波地区、蛇田地区が約10%であることに比べ、特に多くなっています。



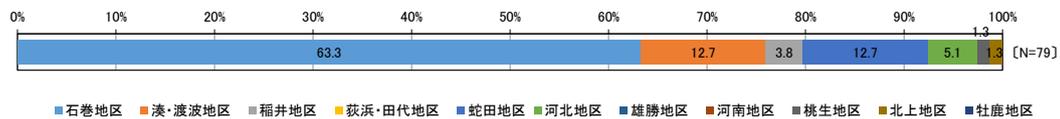
〔現住居の種類（設問5）〕

現住居の種類は、一戸建専用住宅が全体の80%以上を占めますが、共同住宅も民間賃貸、分譲を併せると全体の約7%を占めます。

なお、共同住宅（民間借家＋分譲）の60%以上は石巻地区が占め、次いで多い、湊・渡波地区（約13%）、蛇田地区（約13%）の3地区で全体の約90%を占めます。

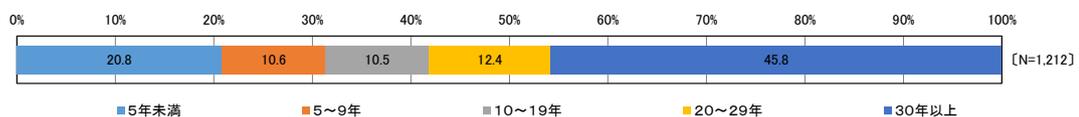


< 共同住宅（民間借家＋分譲） >



〔居住年数（設問6）〕

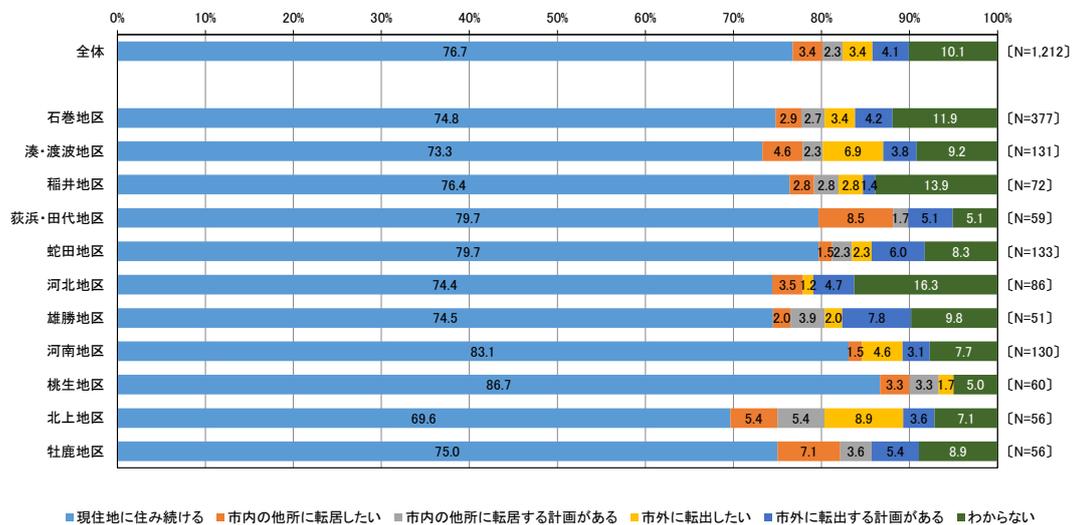
全体の約50%は30年以上の居住ですが、次いで、5年未満が約20%を占めます。



〔今後の居留意向（設問7）〕

今後の居留意向は、全体の77%は現住地に住み続けるとし、市外に転出する計画があるまたは市外に転出したいを合わせた転出意向は10%に満たない状況です。

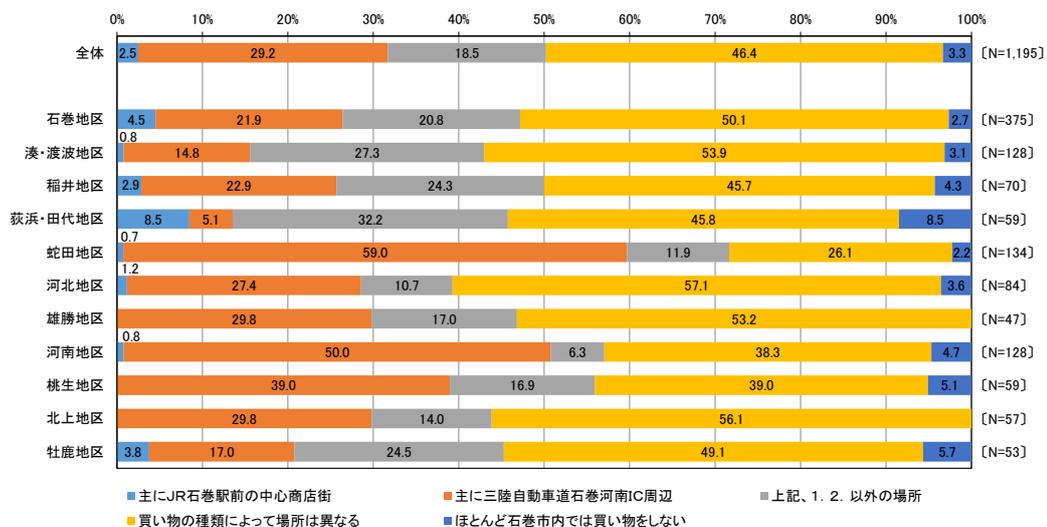
これを地区別にみると、現住地に住み続ける意向の割合は桃生地区が最も多く、最も少ない北上地区は市外への転出意向が10%を超えます。



〔主な買い物の場所（設問8）〕

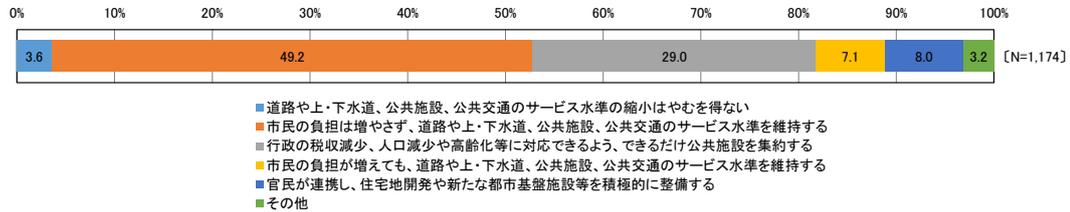
主な買い物の場所は、買い物の種類によって場所は異なるが約50%と最も多くを占めますが、次いで多い主に三陸自動車道石巻河南IC周辺が約30%を占めるのに対し、主にJR石巻駅前の中心商店街（以下、「中心商店街」）は3%にとどまります。

地区別にみても、全地区で中心商店街を利用する割合は低く、石巻河南IC近傍の利用が50%以上を占める蛇田、河南の両地区以外は、全体の傾向と同様の傾向となっています。



②まちづくりの方向性（設問9）

まちづくりの方向性は、市民の負担は増やさず、インフラ等のサービス水準を維持するが全体の約50%を占め最も割合が高く、次いで、行政の税収減少等に対応できるよう、公共施設を集約する（約30%）が続きます。

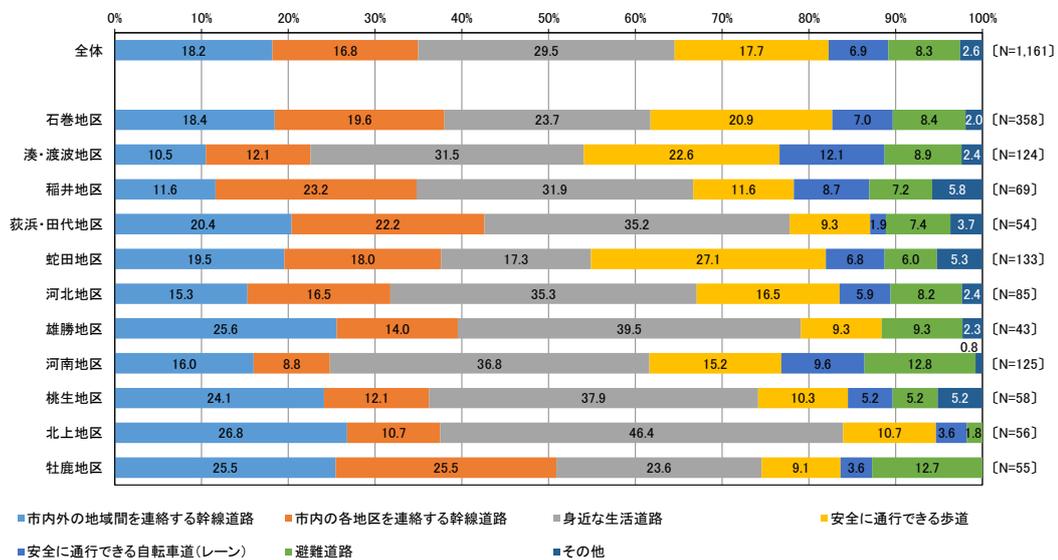


③基盤整備について

[道路整備（設問10）]

全体では身近な生活道路の整備に力を入れるべきとする割合が30%を占め最も割合が高く、次いで、市内外の地域間を連絡する幹線道路が18.2%、安全に通行できる歩道が17.7%となっており、主に歩行者の安全に関わる道路整備に関する関心の高さがうかがわれます。

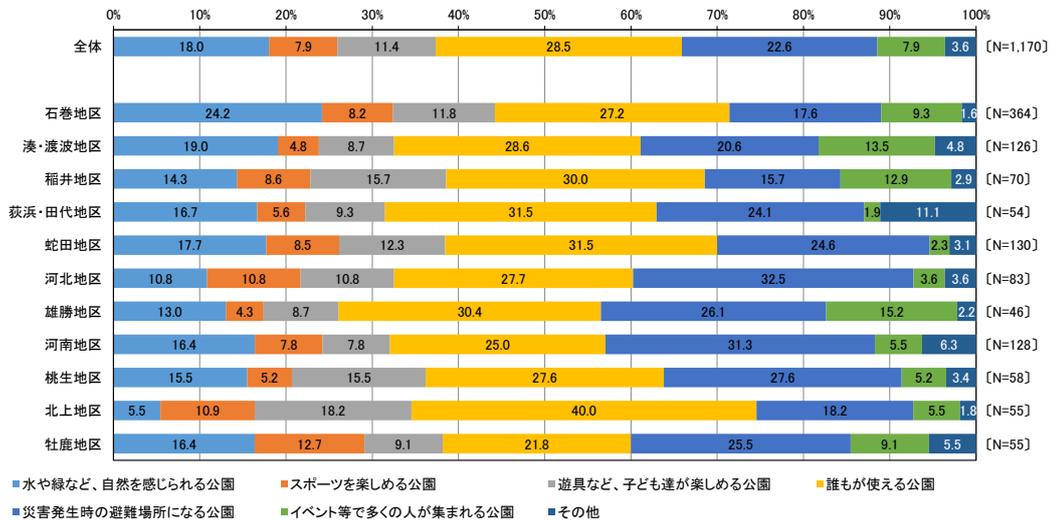
地区別では、牡鹿地区で地域間または地区間の幹線道路整備が50%を占めること、蛇田地区で安全に通行できる歩道が最も割合が高くなっているほかは、全体の傾向と同様の傾向がみられます。



〔公園整備（設問11）〕

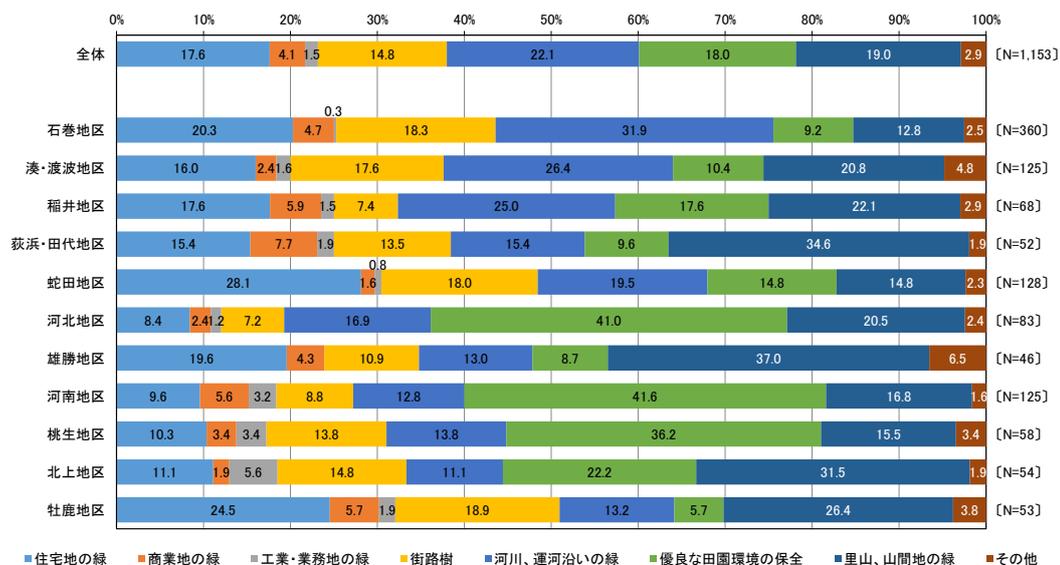
全体では、誰もが使える公園が約30%を占め最も割合が多く、次いで高い、災害発生時の避難場所になる公園の割合を合わせると全体の約50%を占めます。

地区別にみると、石巻地区で誰もが使える公園が最も割合が高く、次いで、水や緑など、自然を感じられる公園の割合が僅差で続く以外は、他の全地区で誰もが使えるまたは災害時の避難場所のいずれかが最も高い割合を占めています。



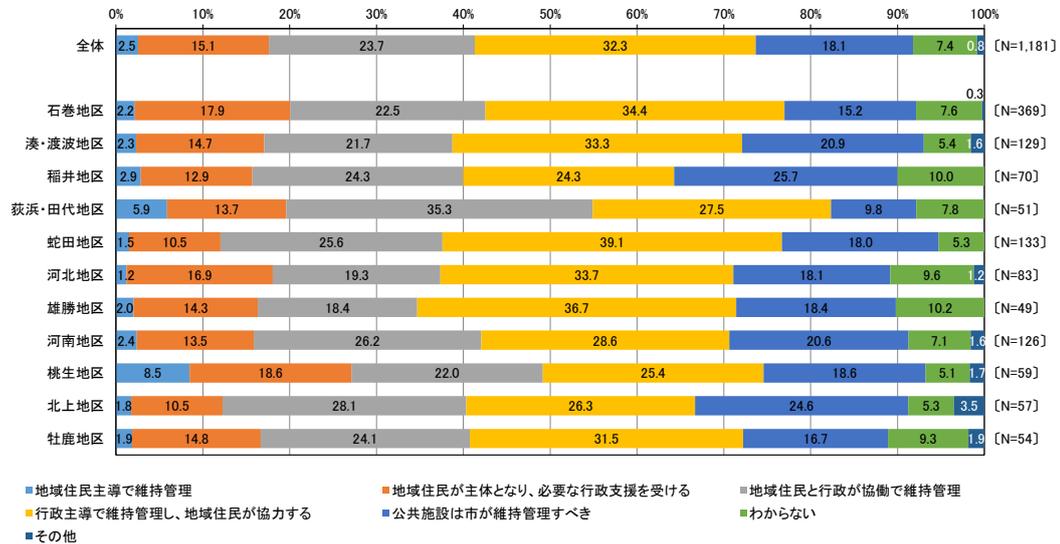
〔緑のあり方（設問12）〕

どのような緑を残し、増やすかについて、全体で特化した項目はみられず、地区別にみても、各地区の特性を反映した項目が高い割合を占めることがうかがわれます。



〔身近な公園の維持管理（設問13）〕

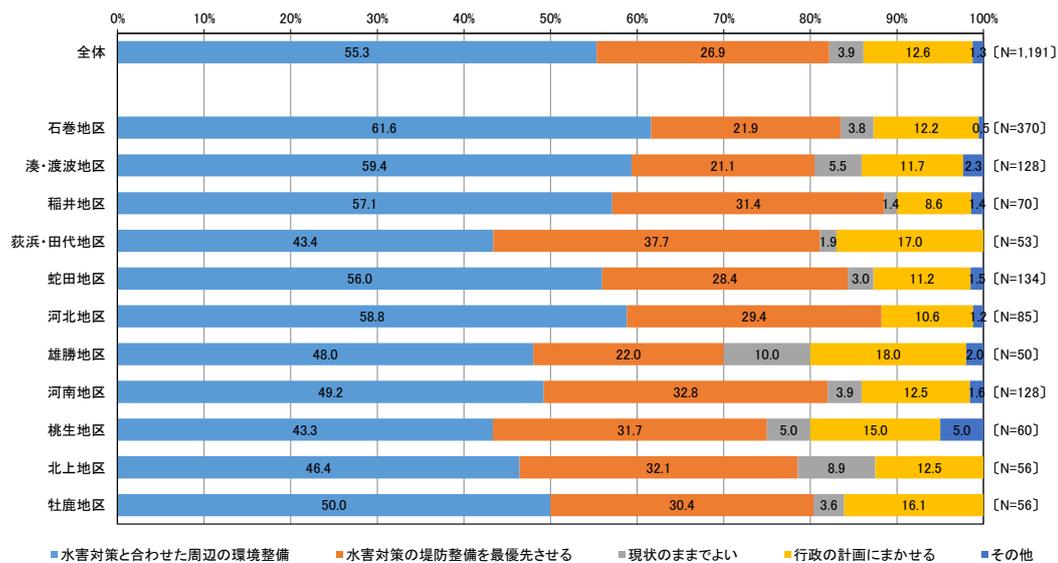
全体では最も多い、行政主導で地域住民が協力と、市が維持管理すべきを合わせた行政中心の維持管理が望ましいとする意見が50%を占めますが、地域住民と行政との協働も約25%を占めています。



〔北上川や旧北上川の河川整備（設問14）〕

全体では、水害対策と合わせた周辺の環境整備が最も割合が高く、堤防整備を最優先させるの約2倍を占めます。

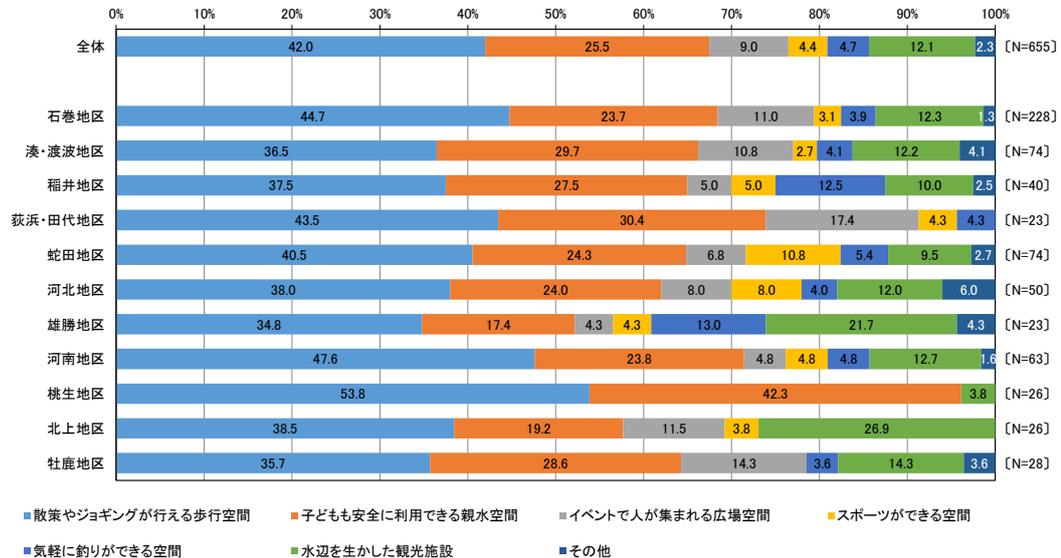
地区別にみても、水害対策と合わせた周辺の環境整備が最も割合が高く、各地区とも40～60%を占め、次いで堤防整備を最優先とする割合が高くなっています。



[河川の周辺環境の整備のあり方について（設問15）]

全体では、散策やジョギングが行える歩行空間が最も割合が高く、次いで、子どもも安全に利用できる親水空間、水辺を活かした観光施設と続きます。

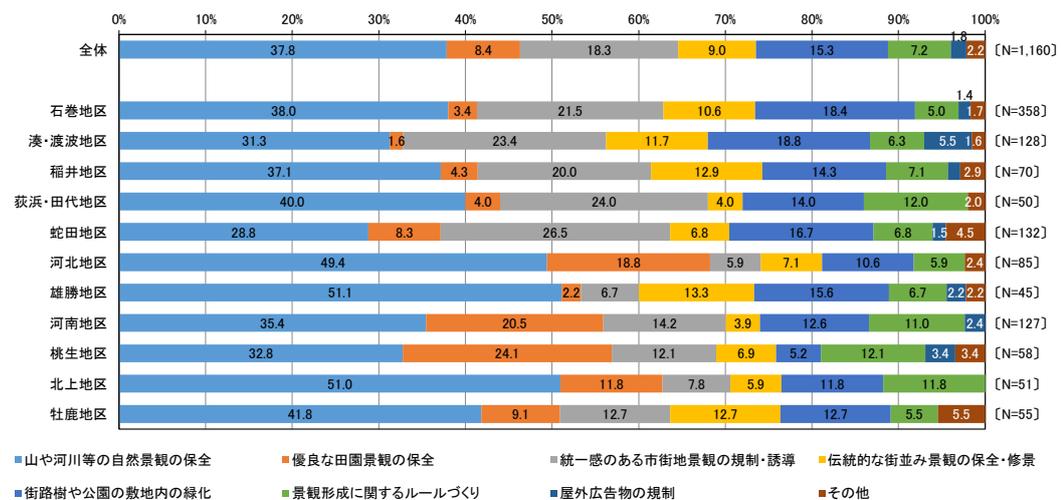
地区別にみると、全地区で散策やジョギングが行える歩行空間が最も割合が高く、次いで子どもも安全に利用できる空間と続きますが、雄勝と北上の両地区では、水辺を生かした観光施設の割合が高くなっています。



④ 良好な景観の保全・修景・創出に必要な取り組み（設問16）

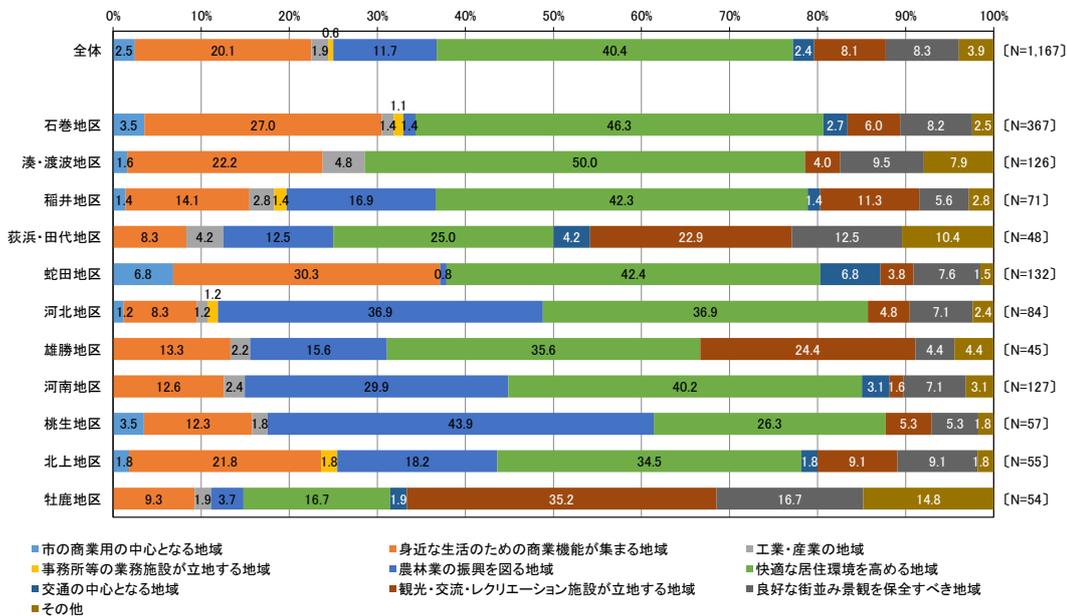
全体では、山や河川等の自然景観の保全が最も割合が高く、次いで、統一感のある市街地景観の規制・誘導、街路樹や公園の敷地内の緑化と続きます。

地区別にみると、河北、河南、桃生、北上の4地区では、山や河川等の自然環境の保全に次いで、優良な田園景観の保全、雄勝や牡鹿では伝統的な街並み景観の保全・修景がそれぞれ挙げられるなど、地区特性の反映がうかがわれます。



⑤回答者の居住地が市全体で担うべき役割（設問 17）

各地区とも快適な居住環境を高めるの割合が高い中、桃生地区は農林業の振興、雄勝地区、牡鹿地区や荻浜・田代地区は観光・交流・レクリエーション施設の立地が最多または最多に近似、既存の商業集積がみられる石巻地区や蛇田地区は、身近な生活のための商業機能集積の割合が高くなっています。



⑥安全・安心に暮らすためのまちづくりの取り組み（設問 18）

全体で、不満とやや不満を合わせた不満度が高い項目は、内水排水施設の整備が最も高く、次いで、避難場所の機能強化、避難場所の整備、災害情報伝達手段の整備、安全・安心に暮らせる住環境の整備と続きます。

地区別に不満度の高い上位5項目に挙げられた項目をみると、内水排水施設の整備は、全地区で挙げられ、次いで、避難場所の機能強化が雄勝地区を除き全地区で挙げられています。

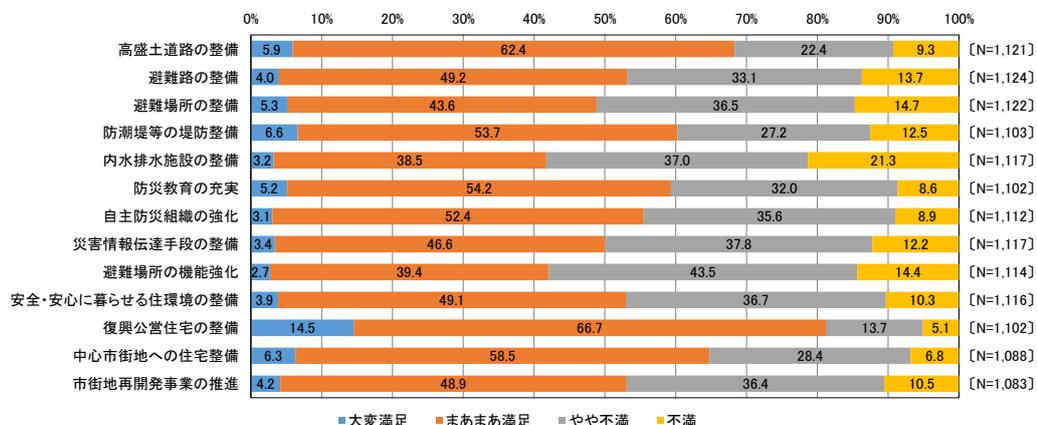


表3-2 地区別項目別不満度・上位5項目

	不満度1位	不満度2位	不満度3位	不満度4位	不満度5位	
石巻地区	内水排水施設の整備	避難場所の機能強化	災害情報伝達手段の整備	避難場所の整備	避難路の整備	—
	56.9	55.4	51.7	49.4	45.6	—
湊・渡波地区	内水排水施設の整備	避難場所の機能強化	災害情報伝達手段の整備	避難場所の整備	安全・安心な住環境整備	—
	66.1	63.4	57.5	56.9	51.2	—
稲井地区	避難場所の機能強化	内水排水施設の整備	避難場所の整備	災害情報伝達手段の整備	市街地再開発事業の推進	—
	66.7	60.9	59.7	50.0	49.2	—
荻浜・田代地区	内水排水施設の整備	避難場所の機能強化	避難路の整備	防潮堤等の堤防整備	安全・安心な住環境整備	—
	67.3	55.3	52.1		51.0	—
蛇田地区	内水排水施設の整備	避難場所の機能強化	安全・安心な住環境整備	避難場所の整備	災害情報伝達手段の整備	—
	57.5	52.8	51.2	49.6		—
河北地区	避難場所の機能強化	避難場所の整備	安全・安心な住環境整備	避難路の整備	内水排水施設の整備	—
	65.8	60.8	57	55.7	55.0	—
雄勝地区	高盛土道路の整備	防潮堤等の堤防整備	内水排水施設の整備	市街地再開発事業の推進	避難路の整備	—
	73.3	72.3	64.3	63.9	54.3	—
河南地区	避難場所の機能強化	避難場所の整備	災害情報伝達手段の整備	内水排水施設の整備	避難路の整備	—
	62.6	54.5	54.0	52.5	46.3	—
桃生地区	避難場所の機能強化	内水排水施設の整備	避難場所の整備	災害情報伝達手段の整備	安全・安心な住環境整備	—
	68.5	57.7	51.9	50.9	48.1	—
北上地区	内水排水施設の整備	自主防災組織の強化	避難場所の機能強化	市街地再開発事業の推進	避難路の整備	—
	57.7	48.1	47.2	46.9	46.3	—
牡鹿地区	市街地再開発事業の推進	内水排水施設の整備	防潮堤等の堤防整備	避難路の整備	災害情報伝達手段の整備	避難場所の機能強化
	55.1	54.9	51.9	49.1	46.2	

※項目の下段の数値：不満とやや不満の割合（単位：％）

⑦石巻市のまちづくり（都市計画）について（設問19）

自由意見の記述内容を分野別に分類すると、回答者全体では、最も関心が高い分野が道路、次いでまちづくりの方向性、防災となっています。

年齢別に見ると、商業施設への関心は10歳代及び20歳代並びに70歳以上が他の世代に比べて高く、公共交通への関心は10歳代及び65歳以上が他の世代に比べ高くなっています。

地区別に見ると、公園・緑・河川管理への関心は荻浜・田代地区、商業施設への関心は河北地区が最も高く、そのほか公共交通は雄勝地区・桃生地区が、地域間格差の是正については河南地区・桃生地区が、高齢福祉は桃生地区が、防災は蛇田地区・河北地区・桃生地区が高くなっています。

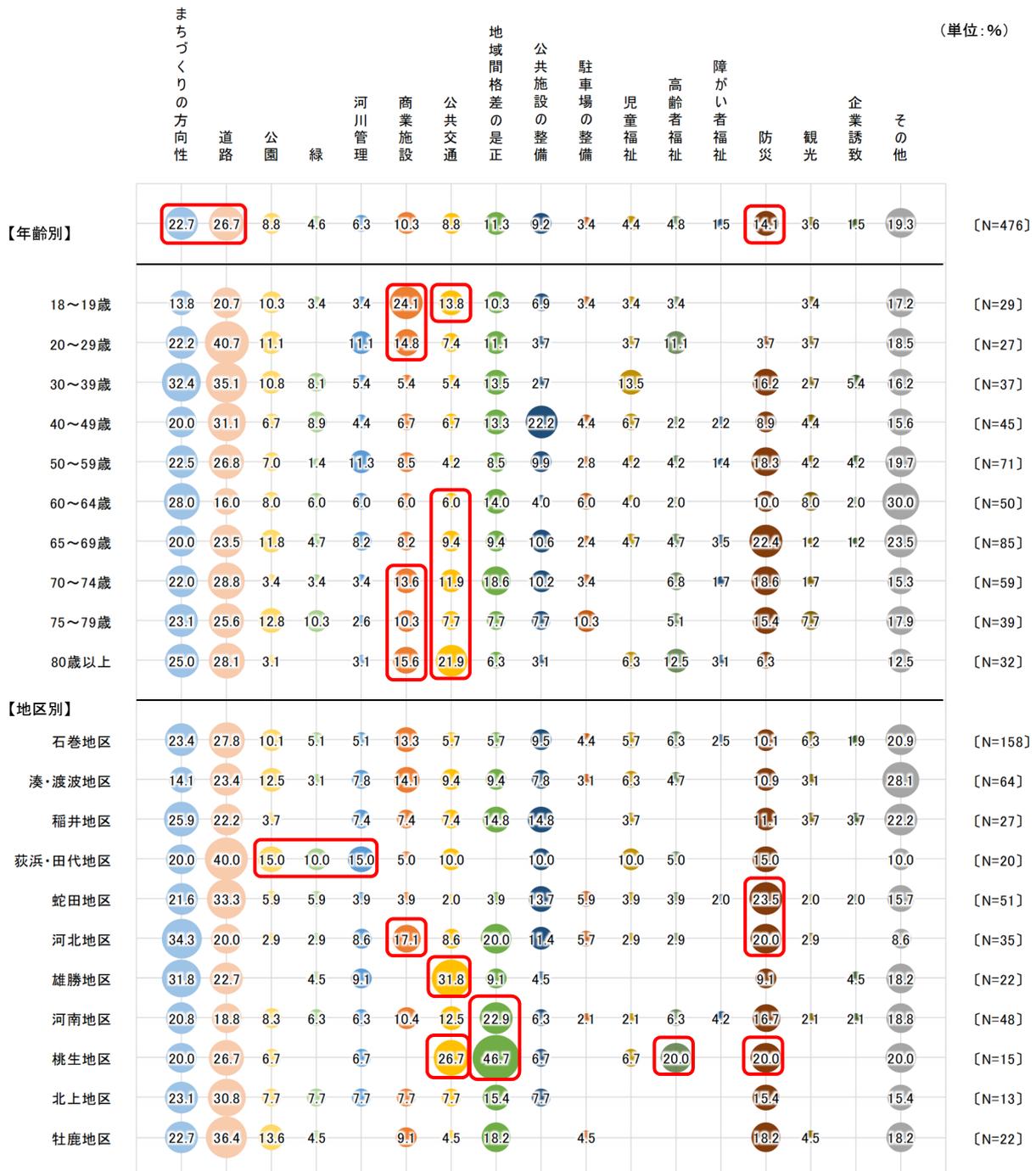


表3-3 代表的な意見・要旨

分野	主な意見
まちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に人口減少と高齢者増の時期に、あえて郊外に住宅は増やさず、コンパクトシティを目指す計画とするのが良いかと思う。 空洞化が進み新陳代謝が低下している市街地は、多様な年齢層が居住できるエリアになるよう、早期に土地を分合するなど新しい住戸形式の提案が必要。 公民連携を後押しする体制づくりや、公園等の整備計画にとどまらず、地域特性を踏まえたランドデザインを描くことが必要である。
地域間格差の是正	<ul style="list-style-type: none"> 旧石巻市の環境整備は進んでいるが、郡部の方は不便である。交通や商業施設等が遠すぎ、高齢化世代には暮らしにくい。 買い物する場所、公共施設など、蛇田地区に偏り過ぎの感じがあり、内海橋を渡り、湊渡波地区過疎化が進むような気がする。地区バランスの考慮が必要。
河川	<ul style="list-style-type: none"> 豪雨時の住宅地の冠水被害が心配。安心して暮らせる地域づくり(災害から守れる)を優先してほしい。危険な場所から人はいなくなる。 堤防工事を第一優先すべき。水害被害額に比べ予防費用は少なく済む。
道路	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や身障者が安全に通行できる道路整備が必要(段差の少ない道路等)。 中心市街地への道路整備を強化してほしい。夕方、朝等の道路の混雑で病院へ行く時間がかかる。
公園	<ul style="list-style-type: none"> 新設だけでなく、老朽化した公園整備も行ってほしい。 子どもから大人まで、外で遊べる環境が身近に少ない。公園に車に乗って行くしかない。復興住宅近くは公園があるが、石巻の外れには何もない。
緑	<ul style="list-style-type: none"> 石巻市は海、河、田園、里山の全てが揃う素晴らしい所だと思う。台風等の自然災害を防ぐにも里山をこれ以上崩し荒れさせないことを望む。 高台整備等で多くの緑が失われ、海に流れ込む栄養の減少が心配。 公園の植樹、街路樹の整備など、緑が豊かな街になってほしい。
公共施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> デザイン性の高い建築、ストリートファニチャーや文化・芸術施設の充実が住み続けたい街につながるのではないかと。 体育館や外で安全にスポーツできる場所がもっと欲しい。
商業機能	<ul style="list-style-type: none"> 高齢なので商店のないのが不便である。 中心市街地で昔のようにウインドウショッピングが楽しめる、身近な品物が並んでおり、入って見たくなる店があれば中心商店街がにぎやかになると思う。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 石巻市全体で交通機関がものすごく不便。車がないと移動が大変である。 集落部等は高齢者が多い割に交通手段が少ない。いざという時の対応が不安。
駐車場整備	<ul style="list-style-type: none"> 旧市街地に活気を戻すために駐車場の整備を考えてほしい。 中心市街地は駐車場も無くて不便である。商業施設の方々はどう思っているのか。今は皆、蛇田方面に買物に行くことが多くなっている。
防災	<ul style="list-style-type: none"> 河川堤防整備と避難場所の整備を強く望む。各地区で歩いて避難できる場所、施設が必要。
観光	<ul style="list-style-type: none"> 渡波にはカキ養殖、サンファンがあるように本市の観光資源を回遊でき、誘客を促すことが重要。
企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> 特に若年者に人気のある職業の企業を誘致し、多くの市民が末永く安心して働くことができるよう対策を考えてほしい。 有効に使える施設や空地を利用してイベントや企業を誘致し、若い人達が集まるようにしたい。

(2) 石巻市総合計画に係る市民アンケート

1) 市民アンケートの概要

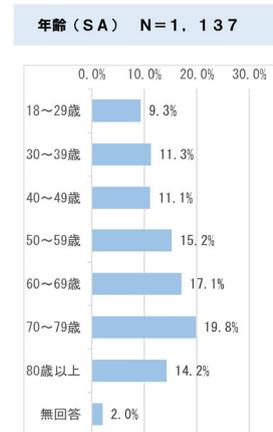
令和3年度から令和12年度までの10年間のまちづくりの指針となる新総合計画策定にあたり、石巻市での暮らしやニーズの傾向を把握し、まちづくりに対する課題を抽出・分析することを目的に、石巻市に居住する18歳以上の市民を対象としたアンケート調査を実施しました。

表3-4 市民アンケートの概要

項目	内容
対象	石巻市に居住する18歳以上の市民(無作為抽出)
配布数/ 回収結果	配布:3,000人 回収:1,137人(回収率:37.9%)
調査期間	令和元年11月18日(月)~12月6日(金)
調査方法	郵送による配布・回収

【回答者属性】

- ・70～79歳代の回答者が最も多く、19.8%を占めます。
- ・年齢が高いほど、多くの回答者が占めます。
- ・18～29歳を除き、他の年代は10%以上の割合を占めます。



【住みやすさ・居住継続意向】

- ・「とても住みやすい」、「どちらかというに住みやすい」とする割合が全体の60%を占めます。
- ・居住継続意向は、全体の約80%を占めます。
- ・住み続けたい理由は、石巻市への愛着や地元であること、次いで、人とのつながりや居住環境(買い物や遊びの便)などが重要な要素となっています。



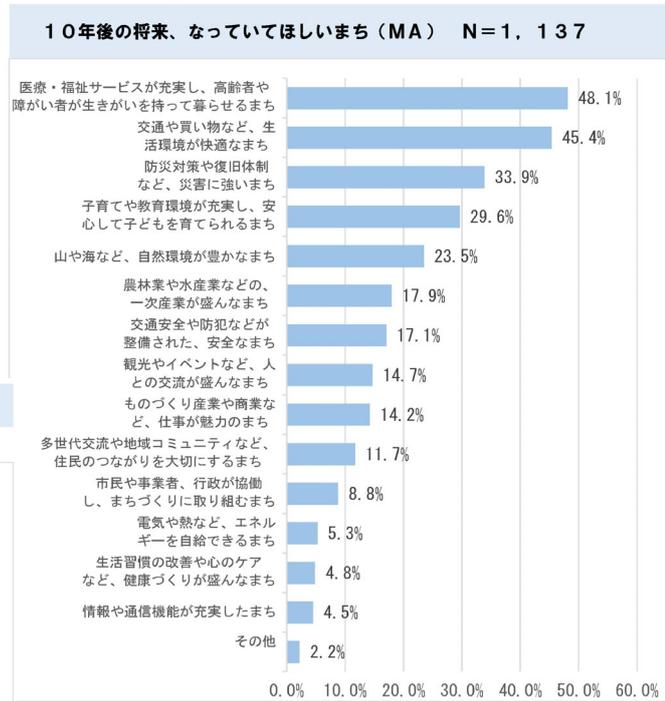
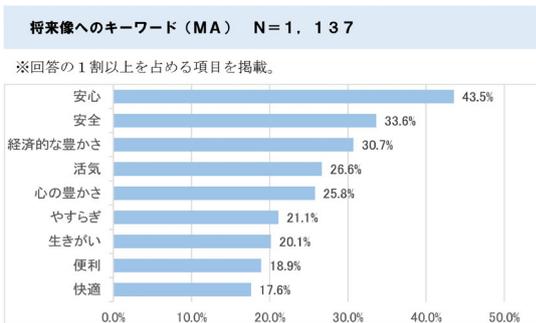
住み続けたい理由 (MA) N=942

※回答の1割以上を占める項目を掲載。

理由	人数	割合
住み慣れていて愛着があるから	584	62.0%
地元だから	534	56.7%
地域の人たちとのつながりがあるから	265	28.1%
居住環境(買物や遊びの便)がよいから	144	15.3%
自然環境が豊かだから	141	15.0%
食べ物がおいしいから	137	14.5%
災害が少ない、または災害に強いから	130	13.8%
交通の便が良いから	106	11.3%

【10年後の石巻市】

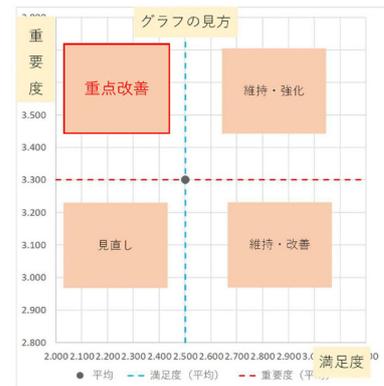
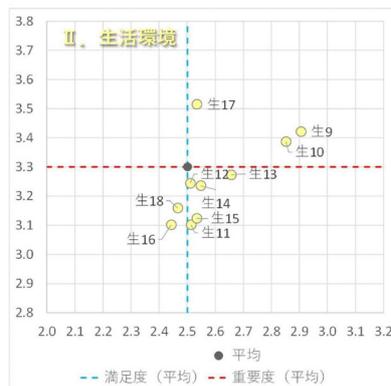
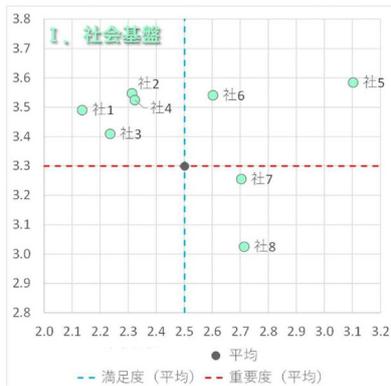
- ・10年後の石巻市について、「医療・福祉サービスの充実」や「交通・買い物などの生活環境の快適さ」が求められています。
- ・将来像へのキーワードとしては、「安心」が最も回答割合が高くなっている。次いで、「安全」、「経済的な豊かさ」、「活気」、「心の豊かさ」などが挙がっています。



【市の取り組みに対する満足度・重要度：重点改善項目】

- ・社会基盤では、公共交通ネットワーク、幹線道路・生活道路などの整備、歩道の整備、河川・水路の整備が挙げられます。
- ・生活環境では、重点改善項目に該当する項目はありません。

分野	項目	満足度	重要度	分類	ラベル
I、社会基盤	1 公共交通ネットワークの整備	2.137	3.491	重点改善	社1
	2 幹線道路・生活道路など道路の整備	2.313	3.548	重点改善	社2
	3 歩道の整備	2.235	3.410	重点改善	社3
	4 河川・水路の整備	2.324	3.525	重点改善	社4
	5 安心して飲める上水道の整備	3.103	3.585	維持・強化	社5
	6 排水処理などの下水道の整備	2.602	3.541	維持・強化	社6
	7 住まいの再建・整備	2.704	3.255	維持・改善	社7
	8 建て替えや新設など公営住宅の整備	2.714	3.026	維持・改善	社8
II、生活環境	9 ごみ収集や処理、減量化などのごみ対策	2.905	3.422	維持・強化	生9
	10 東日本大震災時の災害廃棄物の処理	2.852	3.387	維持・強化	生10
	11 公園や広場の整備	2.515	3.101	維持・改善	生11
	12 森林や河川、海などの自然環境の保全・活用	2.511	3.243	維持・改善	生12
	13 騒音や振動、悪臭などの公害対策	2.657	3.273	維持・改善	生13
	14 地球環境に配慮した省エネ対策	2.549	3.236	維持・改善	生14
	15 太陽光やバイオマスなどの再生エネルギーの活用	2.534	3.124	維持・改善	生15
	16 街並みや景観の整備	2.443	3.102	見直し	生16
	17 交通安全や防犯などの安全対策	2.534	3.514	維持・強化	生17
	18 インターネットやWiFiなどの情報通信基盤の整備	2.466	3.160	見直し	生18



2) 転入者アンケート

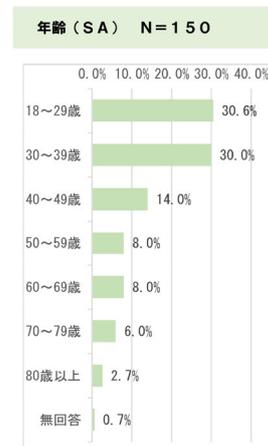
令和3年度から令和12年度までの10年間のまちづくりの指針となる新総合計画の策定にあたり、石巻市への転入のきっかけや石巻の魅力などを把握し、移住定住の促進や関係人口拡大に向けた課題を抽出・分析することを目的とし、過去3年間で石巻市に転入した18歳以上の市民を対象としたアンケート調査を実施しました。

表3-5 市民アンケート調査結果の概要

項目	内容
対象	過去3年間で石巻市に転入した18歳以上の市民(無作為抽出)
配布数/ 回収結果	配布:500人 回収:150人(回収率:30.0%)
調査期間	令和元年11月18日(月)～12月6日(金)
調査方法	郵送による配布・回収

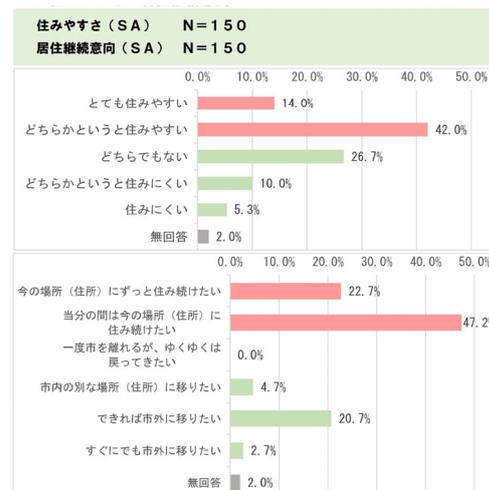
【回答者属性】

- ・20、30歳代の回答が多く、いずれも30%以上であり、合わせて約60%を占めます。
- ・年齢が高いほど回答者の割合が少ない結果となりました。



【住みやすさ・居住継続意向】

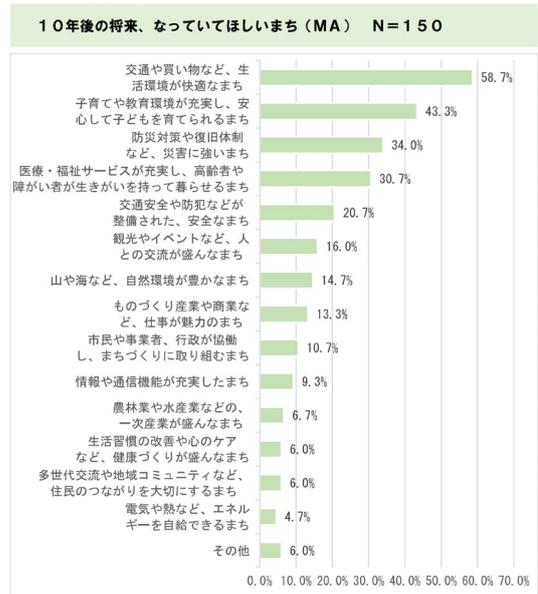
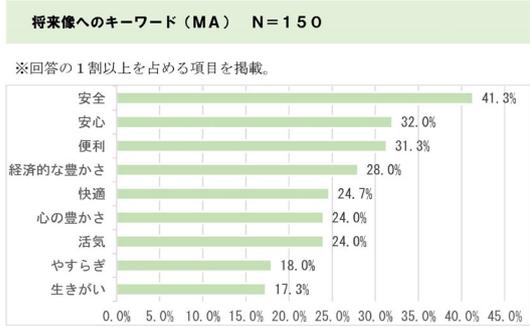
- ・住みやすさについては、市民アンケートと各項目の割合が類似しており、「とても住みやすい」、「どちらかという住みやすい」、「どちらかという住みにくい」の割合が全体の約60%を占めます。
- ・居住継続意向は、市民アンケートと比較すると、「できれば市外に移り住みたい」の割合が約3倍となっています。
- ・移り住みたい理由としては、「交通の便」や「地元ではないこと」、「居住環境が悪いこと」が主な理由として挙げられています。



	人数	割合
交通の便が悪いから	21	50.0%
地元ではないから	20	47.6%
居住環境(買物や遊びの便)が悪いから	17	40.5%
災害が多い、または災害に弱いから	8	19.0%
やりたい仕事がないから	8	19.0%
道路環境の整備が不十分だから	7	16.7%
住み慣れておらず愛着がないから	6	14.3%
その他	9	21.4%

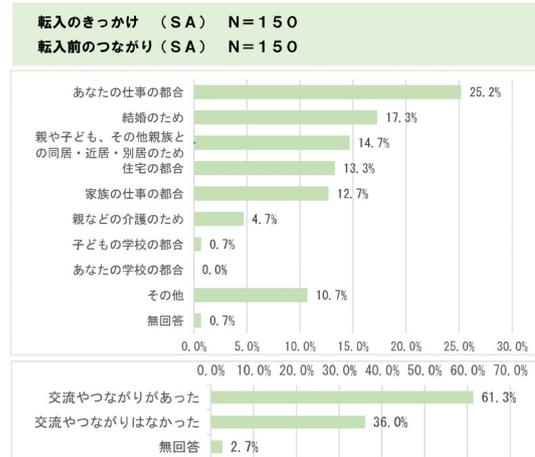
【10年後の石巻市】

- ・10年後の石巻市について、「交通・買い物などの生活環境の快適さ」や「子育て環境の充実」が求められています。
- ・将来像へのキーワードは、「安全」が最も回答割合が高く、次いで、「安心」、「便利」、「経済的な豊かさ」、「快適」などが挙がっています。



【転入のきっかけ】

- ・転入のきっかけは「仕事」や「結婚」、「親や子ども、親族との同居・近居・別居」が主な理由として挙がっています。
- ・転入者の60%が、「石巻市に家族や親せきがいる」こと、10%程度が「知人や友人が住んでいる」ことが明らかです。知り合いがいることが転入の際には、情報収集や転入してからの生活への安心感が得られることなどが理由として考えられます。



石巻市とのつながり (SA) N=92

つながり	人数	割合
石巻市に家族や親せきが住んでいた	58	63.1%
石巻市に知人・友人が住んでいた	11	12.0%
知人や友人等に紹介され、石巻市を訪れた	2	2.2%
地域活動やボランティア等をきっかけに地域と交流するようになった	2	2.2%
その他	16	17.3%
無回答	3	3.2%
総数	92	100.0%

【市民・転入者アンケート調査結果のまとめ】

- ・今後、より一層市民が「住みやすい」と感じられるまちづくりのためには、「医療・福祉・子育て環境の充実」とともに、「交通や買い物など、生活環境の快適性」や「災害に強いまちづくり」が求められます。
- ・居住継続意向について、市民・転入者アンケートともに、若い層ほど住み続けたいと考える方の割合が低く、若い層が住み続けたいと考える取り組みが求められます。
- ・将来像を考える上で「安全」や「安心」が最も重要視されるキーワードであり、さらに、石巻市に住み続けている市民には「活気」や「心の豊かさ」「やすらぎ」、一方で転入者には「便利」や「快適」というキーワードがポイントとなっています。